



## 放送大学、活用してみませんか？

放送大学はテレビ・ラジオ・インターネットで授業を行う通信制の大学です。働きながら大学を卒業したい、学びを楽しみたい、資格取得を目指したいなど、さまざまな目的で、幅広い年代の人たちが学んでいます。

大学や大学院の授業が負担の少ない費用で自分のペースで受けることができます。授業科目は心理学・福祉・経済・歴史・文学・情報・自然科学など約 300 科目があり、1 科目から学ぶことができます。

放送授業の 1 科目の授業料は 11,000 円（入学金は別）。半年ごとに学ぶ科目分だけの授業料を払うシステムです。半年だけ在学することも可能です。

キャリアアップや自己実現など、生涯学習を目指す方、この機会に放送大学で学んでみませんか？ 出願期間は第 1 回が 8 月 31 日まで、第 2 回が 9 月 20 日までです。

### 【資料請求・お問合せ】

放送大学北海道学習センター

旭川サテライトスペース

〒070-0044 旭川市常磐公園(旭川市常磐館内)

T E L 0166-22-2627

F A X 0166-22-2676

※占冠村教育委員会にも若干の資料がありますので、興味のある方はお気軽にご連絡ください。



## 夏休みは水の事故にご用心

夏になると怖いのが、プールや海水浴場での事故です。夏を大いに楽しむためにも、自分の身は自分で守れるように、以下のことに気を付けましょう。

- ・かならず準備体操を行い、身体を濡らしながら水に入りましょう。
- ・利用時間外（早朝、夜間）に遊泳しないようにしましょう。
- ・体調が悪いときや酒類を飲んだときの遊泳は控えましょう。
- ・幼児や児童には、必ず親等保護者が同伴しましょう。
- ・管理者によって区画された遊泳区域内で遊泳しましょう。  
（危険な場所や禁止区域での遊泳は絶対にしないでください。）
- ・遊泳区域を表示する標旗、うき等を移動したり、壊したりしないようにしましょう。
- ・離岸流（海岸に打ち寄せられた海水が沖に戻る強い流れ）に流されたら、あわてずに海岸と平行に泳ぎ、流れから離れましょう。

ルールを守って楽しい夏を過ごしましょう！



# 【野生動物対策の状況について】

村内の野生動物に関する情報をお知らせいたします。

問 林業振興室

☎ 56-2174

## エゾシカ

6月の駆除捕獲は34頭で、やや低迷しています。好調だった昨夏と比較すると先行きに不安も覚えますが、捕獲と利用の営みを堅実に続けていけるよう、捕獲作業、処理作業の実情を注視しながら、進めてまいります。

出産期が終わり、親子の姿を目にすることも

図1 月別エゾシカ駆除捕獲数の推移

増えました。角の無い大小2頭連れはおそらく親子ですが、大中小の3頭組もしばしば目にします。これはきっと、大がお母さん、小が今年の子、中がお姉さん（前年生の女の子）ではないかと思えます。一方、前年生の男の子はお母さんとは離れており、単独か、他の男の子と一緒にいることが多いようです。

## ヒグマ

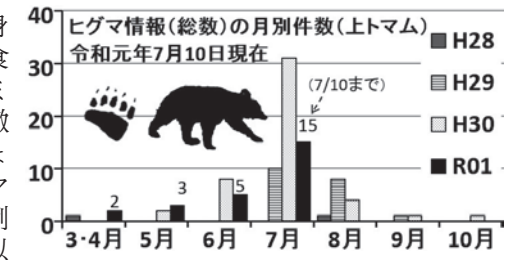
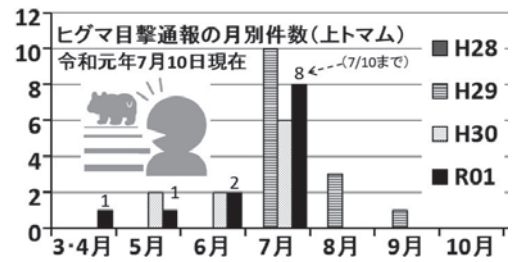
今年の出没は、全体としては比較的平穏でした。

しかし上トマムでは、7月に入ってから毎日のように目撃があります。調べてみると、第2トマム団地の裏山を中心に、親離れして間もないと思われる若いクマが1頭おり、あまり人を恐れず、住宅の近くまでフキやアリを食べに来ていることが分かりました。そのほかに近辺で活動する別のクマの情報も重なり、突出した情報件数となっています（右上図）。

村は巡視警戒の頻度を高めるとともに、付近住民の皆様にお願ひし、事故防止と情報収集のため格別の注意を払っていただいております。おかげさまで、7月

10日現在まで、被害はありません。当面は、ヒグマの接近をエスカレートさせないよう、身の回りの食べ物やゴミの管理を徹底しましょう。上トマムでは例年、8月以降はクマが山へ戻っていく傾向ですので、うまくいけば、今回も餌の変遷に伴う沈静化が予想されます。

村は、このヒグマの動向に注意し、事態が悪化する場合は、捕獲を含むより強い手段も視野に、注意深く対応してまいります。引き続き、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。



## アライグマ

今期捕獲数は、6月中旬に2頭を加えて計3頭になりました。従事者の皆様は、ご協力ありがとうございました。今春に新たに導入した新型の箱わなでも、初めての捕獲実績がありました。さらなる捕獲に向け、引き続き取り組んでまいります。



新型の箱わな(奥)に接近するアライグマ。このあと捕獲。(双珠別6月)

# こちら 駐在所です

占冠駐在所 ☎ 56-2110

## 高齢ドライバーの交通事故を防ぐために。

高齢ドライバーによる死亡事故の主な原因として、アクセルとブレーキの踏み間違いなどや、相手の自動車や歩行者を発見しても「～しないだろう」と思い、気にせず漫然と運転する「漫然運転」「安全不確認」があります。

運転歴何十年というベテランが多いにもかかわらず、高齢ドライバーが事故を起こしてしまうのは、止まれると思ったポイントで停車できない、一つの事象にとらわれ、ほかの情報を見逃すなど「意識と行動のミスマッチ」や慣れが影響しています。加齢による身体機能の低下によって、ハンドルやブレーキ操作が遅れて事故を起こすこともあり得ることを認識したうえで、早めのライト点灯や安全な速度での運転を心がけましょう。また、交通安全講習会や実技研修、運転適正検査なども活用して自分の運転能力をチェックしましょう。

